

株式会社つばくろ電機

■平成24年度テーマ

金属加工部品表面仕上げ（バフ研磨）自動化装置の開発

■平成24年度概要

金属加工部品の表面仕上げ工程であるバフ研磨においては、作業者の熟練度や金属粉などによる作業環境の悪影響による人材不足、業者減少により、納期遅れや品質確保が課題となっている。そこで、3D画像処理技術とロボット化、当社のプログラミング技術により、自動化を実現させ装置内でのクリーン環境による金属部品仕上げ装置を開発し、販売することにより、金属部品市場における新規顧客獲得、市場の活性化を目指す。

■平成24年度分類

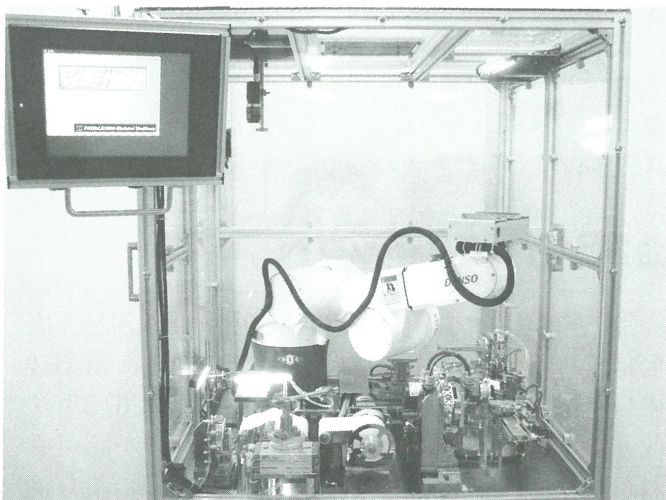
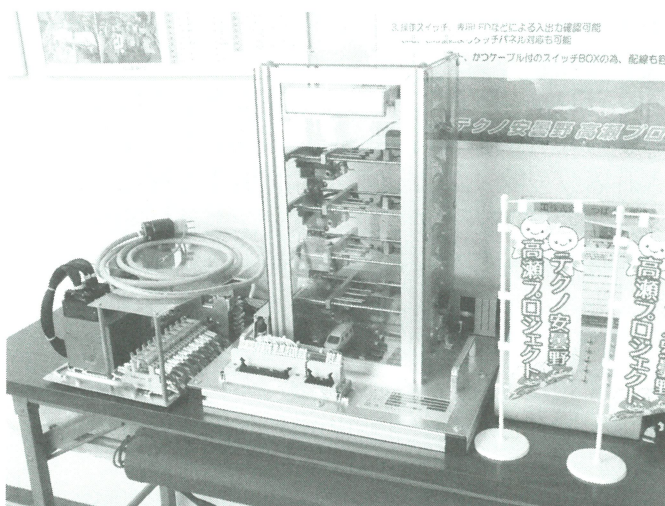
＜事業類型＞ 試作開発のみ

＜競争力強化の形態＞ ニッチ分野特化型

＜22分野技術＞ 切削加工

■事業の概要と成果

金属加工部品の表面仕上げ工程であるバフ研磨において、課題となっている作業者の熟練度や金属粉などによる作業環境の悪影響による人材不足、業者減少による納期遅れや品質確保を改善するために、3D画像処理技術とロボット化、プログラミング技術により、自動化を実現させ、クリーン環境による金属加工部品表面仕上げ（バフ研磨）自動化装置を開発・設計・製作・完成にいった。



好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

株式会社つばくろ電機（松川村）

ロボットを活用した高付加価値のものづくりで
逆境に強い体質づくりを進める。

地域貢献として地元雇用にも力を入れる

安曇野で「つばくろ」と聞いて、山好きな人でなくてもピンとくるのが北アルプスの燕岳。「燕岳が本社真っ正面に見える」という、つばくろ電機の社名もこれに由来します。



省力化装置の組立工程

同社は各種制御盤、配線盤などの製作でスタート。やがて省力化生産設備向け制御盤の設計・製造、さらには省力化生産設備そのものの設計・製造へと事業を拡大してきました。現在、自動組立機・装置、省力化機械設備、FA機器システムの開発・設計・製造を手がけています。

「創業以来の電気を強みに、お客様の要望にその都度応えるというスタイルで技術を広げ、受注を拡大してきた。お客様に恵まれてここまでできました」と白澤祐二社長。フィルム類の給除材、他部材やプラスチック部品を熱などで溶かして接合する技術（溶着）を得意とし、装置の開発などで独自性を発揮しています。

白澤さんは社長就任以来18年、弱かった機械分野の技術者育成にも力を注いできました。「大学新卒を中心に自前で育ててきました。とはいえ、お客様の要望を聞いて仕事をする中で、お客様に教わりながら技術を身につけてきたということ。今彼らが30代半ばになり、会社の中核を担うようになってきました」。

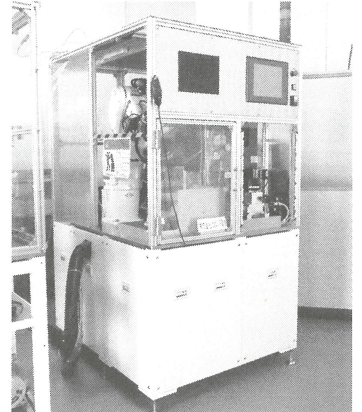
同社では地域貢献の一環として、地元の高校や高専のインターンシップなども活用し地元からの雇用にも力を入れています。

ロボット関連装置で利益体質づくり

「海外移転が進む中、当社はリーマンショック以前に日本に残ると決め、高付加価値のものづくりを目指した。その結果がロボットでした」と白澤さんは話し、こう続けます。

「2009年の展示会に6軸2関節ロボットを活用した拭取・表面貼付装置を出品しました。リーマ

ンショックで1年間ほとんど仕事がなく、こんな時こそ自分たちの製品を作っていかなければと取り組んだのです」。さらに平成24年度ものづくり補助金を活用し「金属加工部品表面仕上げ（パフ研磨）自動化装置」の開発も行いました。



金属加工部品表面仕上げ（パフ研磨）自動化装置

現在、ロボットを使った装置開発が8割を占めるという同社。6軸2関節ロボットはまだ1割程度ですが急速に受注を伸ばしており、「今後主力に育つ分野」と期待しています。



設計部門

さらに目指すのが、ロボットと画像処理技術を組み込んだ装置の開発。「もしまたリーマンのような状況が起きても、仕事があり、売上げは落ちても利益が出る体質づくりをしているつもり。それにつけても人材の強化には力を入れていきたい」。

白澤さんは将来に向けて着実に手を打っているようです。



株式会社つばくろ電機

代表者 代表取締役社長 白澤祐二
創業 1973（昭和48）年6月
資本金 1,000万円 従業員数 60人
本社 北安曇郡松川村5794-296



TEL.0261-62-2751 FAX.0261-62-3100
事業内容 自動組立機・装置、省力化機械設備、FA機器システムの開発・設計・製造、各種制御盤設計・製作